

農薬登録における作物グループ化の検討のための試験委託事業

(① すいか、メロン)：圃場試験概要

1. 試験目的

すいか及びメロン試料について作物残留試験を実施し、果肉及び果実をそれぞれ分析し、各部位の残留濃度を求めた。

2. 試験指針

試験の実施に際する詳細については、「農薬作物残留試験の手引き（未定稿）」（平成15年2月 社団法人日本植物防疫協会・財団法人日本植物調節剤研究協会）に準拠して実施した。

3. 試験実施場所

(a) 圃場試験

一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所 （担当者）櫻井 昭寿

連絡先 〒300-1212 茨城県牛久市結束町535

Tel. 029-872-5172, Fax. 029-872-3078

一般社団法人日本植物防疫協会 高知試験場 （担当者）松村 栄一

連絡先 〒781-5231 高知県香南市野市町深淵本田1211

Tel. 0887-56-1414, Fax. 0887-56-3414

一般社団法人日本植物防疫協会 宮崎試験場 （担当者）井園 佳文

連絡先 〒880-0212 宮崎県宮崎市砂土原町下那珂11913

Tel. 0985-73-4198, Fax. 0985-73-4196

(b) 残留分析

① すいか（ポリオキシンを除く）

一般財団法人残留農薬研究所 （担当者）長田 拓也

連絡先 〒303-0043 茨城県常総市内守谷町4321番地

Tel: 080-5405-7936, Fax: 0297-27-4517

② メロン（ポリオキシンを除く）

株式会社化学分析コンサルタント （担当者）望月 隆広

連絡先 〒174-0041 東京都板橋区舟渡1丁目7番3号

Tel: 03-3967-8235, Fax: 03-3967-4481

③ すいか及びメロンにおけるポリオキシシン（生物検定法）

日本エコテック株式会社 （担当者）成瀬 正昭

連絡先 〒964-0981 福島県二本松市平石高田4-286

Tel: 0243-23-7851, Fax: 0243-23-7852

4. 対象農薬

別紙参照

5. 対象農作物

すいか（小玉），施設栽培

メロン（ネットメロン），施設栽培

6. 試験設計

試験地域の慣行時期及び方法に準じて施設栽培されたすいか及びメロンで圃場試験を実施した。

1) 供試農薬・処理条件・試験区

① すいか

対象農薬 25 剤を 6 グループに分けて試験を行うこととし，6 つの試験区（A～F）を設けた。また，無処理区（G）を 1 区設けた。各試験区は定められた採取量の試料が確保できる面積を設定した。無処理区は処理区からの飛散に留意し設定した。各処理区においては 2～6 農薬を混用散布した（その際，各農薬の使用回数は異なるため，散布日毎に混合する農薬数は異なる）。供試農薬，試験区，希釈倍数，散布日（散布回数）についての詳細は別紙に示した。

② メロン

対象農薬 13 剤を 4 グループに分けて試験を行うこととし，4 つの試験区（A～D）を設けた。また，無処理区（E）を 1 区設けた。各試験区は定められた採取量の試料が確保できる面積を設定した。無処理区は処理区からの飛散に留意し設定した。各処理区においては 1～5 農薬を混用散布した（その際，各農薬の使用回数は異なるため，散布日毎に混合する農薬数は異なる）。供試農薬，試験区，希釈倍数，散布日（散布回数）についての詳細は別紙に示した。

2) 処理方法

薬剤毎に指定された処理回数、希釈倍数となるように各薬剤を混合して調製した薬液を、適正圧力が保たれる手散布機具を用いて 10 a 当たり 200～300 L の割合で作物の大きさに合わせた十分な量（葉から滴り落ちる程度）を 5～8 日間隔で散布した。薬液には展着剤は加用しないこととし，十分に攪拌した後に散布した。

【 薬液調製方法 】

供試農薬毎に指示された希釈倍数となるように各薬剤を正確に秤量し，これらを混合した薬液を作製した。

フロアブルは使用前に容器をよく振ってから使用した。フロアブルの秤量には注射器を用いた。

3) 試料採取・送付方法

① すいか

処理区試料は最終散布 1, 3, 7 日後, 3, 7, 14 日後, 7, 14, 21 日後又は 14, 21, 28 日後に, 無処理区は処理区初回採取前に以下の条件をいずれも満たす試料を採取した。試料は試験地域の出荷基準に該当する状態のものとし, 試験区内の偏りがないように採取した。試料は採取後直ちに分析場所 (一般財団法人残留農薬研究所) に冷蔵宅配便にて送付した。

【 試料採取条件 】

(採取部位) 果実, (重量・個数) 5 kg 以上かつ 5 個以上 (無処理区は 15 個程度)

② メロン

処理区試料は最終散布 1, 3, 7 日後, 3, 7, 14 日後又は 10, 13, 17 日後に, 無処理区は処理区初回採取前に以下の条件をいずれも満たす試料を採取した。試料は試験地域の出荷基準に該当する状態のものとし, 試験区内の偏りがないように採取した。試料は採取後直ちに分析場所 (株式会社化学分析コンサルタント) に冷蔵宅配便にて送付した。

【 試料採取条件 】

(採取部位) 果実, (重量・個数) 5 kg 以上かつ 5 個以上 (無処理区は 10 個程度)

③ すいか及びメロンにおけるポリオキシシン分析用試料

- ・すいか：一般財団法人残留農薬研究所において試料調製を実施した後, 凍結した。それを冷凍宅配便で分析場所 (日本エコテック株式会社) に送付した。
- ・メロン：株式会社化学分析コンサルタントにおいて試料調製を実施した後, 凍結した。それを冷凍宅配便で分析場所 (日本エコテック株式会社) に送付した。

4) 試験予定の連絡

圃場試験担当者は処理及び採取の日程を分析担当者にあらかじめ連絡し, 試験を実施した。

7. 報告

試料調製方法, 試験期間中の気象 (平均気温) 及び試験風景の写真等については, 試料調製明細書 (資料3) を参照

別紙

表 1. 供試農薬と処理条件 (すいか)

試験区	対象化合物					散布▼						採取○			
	一般名	農薬名	濃度	希釈倍数 使用量	使用 回数	36 日 前	29 日 前	22 日 前	15 日 前	8 日 前	1 日 前	1 日 後	3 日 後	7 日 後	
A	イミダクシン酢酸塩	ホリベリン水和剤	5.0%	1000倍	4回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	シハロトリ	サイハロン乳剤	5.0%	2500倍	1回						▼	○	○	○	
	ジフェコナゾール	スコア顆粒水和剤	10.0%	2000倍	3回				▼	▼	▼	○	○	○	
	トラロトリ	スカウトフロアブル	1.4%	2000倍	5回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	シベルメトリ	アグロスリン乳剤	6.0%	1000倍	5回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
B						36 日 前	29 日 前	22 日 前	15 日 前	8 日 前	1 日 前	1 日 後	3 日 後	7 日 後	
	エマメクシン安息香酸塩	アファーム乳剤	1.0%	1000倍	3回				▼	▼	▼	○	○	○	
	フェニトロキシメート	ダニロンフロアブル	5.0%	1000倍	3回				▼	▼	▼	○	○	○	
	カスガマイシン	カスミンボルドー	5.7%	1000倍	5回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	DBEDC	サンヨール	20.0%	500倍	4回				▼	▼	▼	○	○	○	
	マラソン	マラソン乳剤	50.0%	1000倍	6回		▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	
C						36 日 前	29 日 前	22 日 前	15 日 前	8 日 前	1 日 前	1 日 後	3 日 後	7 日 後	
	ジチアノン	テランT水和剤	50.0%	700倍	5回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	有機銅	ドキンフロアブル	35.0%	500倍	5回			▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	ビフェナゼート	マトコーネフロアブル	20.0%	1000倍	1回						▼	○	○	○	
	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤	20.0%	2000倍	2回						▼	○	○	○	
	チアクロプリド	ハリアード顆粒水和剤	30.0%	2000倍	3回					▼	▼	○	○	○	
	アバメクシン	アグリメック	1.8%	500倍	3回					▼	▼	○	○	○	
D						31 日 前	24 日 前	17 日 前	10 日 前	3 日 前		3 日 後	7 日 後	14 日 後	
	TPN	ダユニール1000	40.0%	700倍	5回			▼	▼	▼	▼		○	○	○
	キノキサリン系	モレストク水和剤	25.0%	2000倍	5回			▼	▼	▼	▼		○	○	○
	フルバリンネート	マブリック水和剤20	20.0%	2000倍	2回						▼		○	○	○
	ホリオキシ複合体	ホリオキシAL水溶剤	50.0%	1000倍	5回			▼	▼	▼	▼		○	○	○
E						42 日 前	35 日 前	28 日 前	21 日 前	14 日 前		14 日 後	21 日 後	28 日 後	
	クロルフルアスロン	アタブロン乳剤	5.0%	2000倍	3回					▼		○	○	○	
	キャプタン	オゾンサイト水和剤80	80.0%	400倍	5回		▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	
F						49 日 前	42 日 前	35 日 前	28 日 前	21 日 前	14 日 前	7 日 前	7 日 後	14 日 後	21 日 後
	ジフルベンスロン	デミリン水和剤	23.5%	1000倍	3回					▼	▼	▼	○	○	○
	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	80.0%	400倍	7回	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○
	ミルベメクシン	コロマト乳剤	1.0%	1000倍	2回						▼	▼	○	○	○
G	無処理												○		

別紙

表 2. 供試農薬と処理条件（メロン）

試験区	対象化合物					散布▼					採取○			
	一般名	農薬名	濃度	希釈倍数 使用量	使用 回数	29 日 前	22 日 前	15 日 前	8 日 前	1 日 前	1 日 後	3 日 後	7 日 後	
A	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	30.0%	3000倍	5回	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	ノニルフェノールスルホン酸銅	ヨネボン水和剤	40.0%	500倍	4回		▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	ペノミル	ペンレート水和剤	50.0%	2000倍	3回			▼	▼	▼	○	○	○	
	DBEDC	サンヨール	20.0%	500倍	4回		▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	ホセチル	アジェティ水和剤	80.0%	800倍	3回			▼	▼	▼	○	○	○	
B						29 日 前	22 日 前	15 日 前	8 日 前	1 日 前	1 日 後	3 日 後	7 日 後	
	マラソン*	マラソン乳剤	50.0%	1000倍	3回			▼	▼	▼	○	○	○	
	ミルベメクチン	コロマト乳剤	1.0%	1000倍	2回				▼	▼	○	○	○	
	ホリオキシン複合体	ホリオキシンAL水溶剤	50.0%	1000倍	5回	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	シフルフェナミド	パンチョTF顆粒水和剤	3.4%	1360倍	2回				▼	▼	○	○	○	
	アバメクチン	アグリメック	1.8%	500倍	3回			▼	▼	▼	○	○	○	
C						31 日 前	24 日 前	17 日 前	10 日 前	3 日 前	3 日 後	7 日 後	14 日 後	
	カスガマイシン	カスミンホールドー	5.7%	1000倍	5回	▼	▼	▼	▼	▼	○	○	○	
	イミダクロプリト*	アドマイヤーフロアブル	20.0%	2000倍	3回				▼	▼	○	○	○	
D						38 日 前	31 日 前	24 日 前	17 日 前	10 日 前		10 日 後	13 日 後	17 日 後
	有機銅	ドキンフロアブル	35.0%	500倍	5回	▼	▼	▼	▼	▼		○	○	○
E	無処理										○			

* 粉剤の投下AI量で読み替えているため、180L/10a以上